



## 市川 香

九州大学応用力学研究所  
海洋環境物理分野 准教授

(HP) <http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/oed/ichikawa/>  
(専門分野)  
海洋物理学

### ■これまでの略歴、研究活動の紹介

#### (略歴)

1994年 京都大学理学研究科地球物理学専攻博士後期課程修了、博士（理学）

1994年～1997年 愛媛大学工学部環境建設工学科助手、1997年より現職

#### (研究活動)

主にリモートセンシング（人工衛星、海洋レーダ）のデータ解析によって、「見えないモノを見る」ことで、新たな海洋学的な知見を得ている（例えば、九州や北海道のサイズの渦が太平洋をゆっくりと西進して、深海のダイオウイカの出現確率を変えたり、黒潮に取り込まれて東シナ海や日本南岸に変動を起こす等）。その他、寿命が短くてスケールも小さい現象が多い沿岸域・縁辺海で有効な観測手法そのもの（新型衛星海面高度計、船上海水位計測システム、GNSS反射波で計測する海象観測システム等）の開発にも携わっている。なお、これらの研究活動の他に、大学院総合理工学研究科における学生の指導や、日本海洋学会・日仏海洋学会の評議員などの活動も行っている。

## 石坂 丞二

名古屋大学地球水循環研究センター  
教授・センター長

(HP) <http://www.hyarc.nagoya-u.ac.jp/japanese/>  
(専門分野)  
生物海洋学



### ■これまでの略歴、研究活動の紹介

1998年 テキサス A&M 大学 Ph.D (Geoscience)

1989年 通商産業省工業技術院公害資源研究所研究員

1992年 通商産業省工業技術院資源環境技術総合研究所主任研究員

1998年 長崎大学水産学部教授

2009年 名古屋大学地球水循環研究センター教授、現在センター長

植物プランクトンによって行われる海洋の基礎生産の時空間変動に関して、主に衛星リモートセンシングを用いて研究している。特に縁辺海や沿岸域を対象海域として、気候変動による海洋の成層過程や河川流量の変動と変化、および富栄養化のような直接的な人間活動による影響に興味を持っている。



## 日向 博文

愛媛大学大学院理工学研究科  
生産環境工学専攻 環境建設工学コース 教授  
(HP) <http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~kaigan/>  
(専門分野) 海の流れや漂流・漂着物の研究

### ■これまでの略歴、研究活動の紹介

#### (略歴)

1991年03月 東工大大学院理工学研究科修了  
1991年04月 (株)熊谷組入社  
1995年08月 東工大工学部 助手  
2000年04月 運輸省港湾技術研究所 主任研究官  
2001年04月 国土交通省国土技術政策総合研究所 主任研究官  
2007年10月 同研究所 室長  
2014年04月 愛媛大学大学院理工学研究科 教授

#### (学位)

2000年01月 博士(工学) 東京工業大学

#### (受賞歴)

土木学会論文奨励賞(2000)、日本港湾協会論文賞(2013)

## 向井田 明

(一財)リモート・センシング技術センター ソリューション事業部部長  
(HP) <https://www.restec.or.jp/>  
(専門分野)  
衛星リモートセンシングによる災害監視



### ■これまでの略歴、研究活動の紹介

1968年 北海道生まれ。東海大学海洋学部海洋工学科卒、同修士課程修了。  
1993年 RESTEC 入社後、JAXA 地球観測衛星、地球観測プラットフォーム技術衛星 "みどり" 及び "みどり2号"、陸域観測技術衛星 "だいち" などの運用、データ解析にたずさわる。特に "だいち" では東日本大震災をはじめとした大災害に対応した。現在、"だいち2号"等、地球観測衛星のデータ配布およびソリューション提供業務を担当。



## 大野 修一

一般社団法人 宇宙エレベーター協会 会長

(HP) <http://www.jsea.jp/>

(専門分野)

テザードバルーン

### ■これまでの略歴、研究活動の紹介

#### (略歴)

1991年 神奈川大学工学部機械工学科卒業、同大情報処理センター技術職員、その後事務職員となり財務部予算課へ。

2005年に米国の宇宙エレベーター開発会社などと交流をはじめ、2007年有限責任事業組合宇宙エレベーター協会設立、NASA Centennial Challenge Power Beaming 競技会に参加、2008年宇宙エレベーター協会設立、会員募集開始（当初8名）、2009年一般社団法人宇宙エレベーター協会設立、会長。

#### (研究活動)

宇宙エレベータークライマーの実験環境確立のためにテザードバルーン（係留気球）の運用を2009年に開始、その後徐々に規模を大きくし、2013年からは浮力400kg超のヘリウムバルーンを用いて、高度1,200m以上を運用中。



## 東野 伸一郎

九州大学大学院 工学研究院 航空宇宙工学部門 准教授

(HP) <http://www.aero.kyushu-u.ac.jp/fdl/index-j.html>

(専門分野)

飛行力学、小型無人機の開発・応用研究

### ■これまでの略歴、研究活動の紹介

1988年 九州大学大学院工学研究科修士課程修了。川崎重工業株式会社勤務を経て1992年から九州大学に勤務。  
1999年 博士（工学）取得。九州大学助手。講師を経て2010年より現職。空中磁場探査用無人機を国立極地研究所と共同開発、2010～2011年および2011～2012年の南極の夏2シーズンにわたり南極サウスシェトランド諸島での空中磁場探査を実施。2012年1月には連続飛行距離300kmにわたる空中磁場探査に成功。エアロゾル観測・サンプルリターン用の気球分離型滑空無人機を福岡大学と共同開発。第54次南極地域観測隊夏隊に参加し、2013年1月に高度10kmまでの観測とエアロゾルサンプルリターンに成功。第56次南極地域観測隊夏隊では、2015年1月に高度23kmまでの観測とサンプルリターンに成功。



## 柴田 耕志

明星電気株式会社

取締役 兼 執行役員、気象防災事業本部 副本部長 兼 気象・管制事業部長

(HP) <http://www.meisei.co.jp/>

<http://www.meisei.co.jp/museum/rsonde/>

(ラジオゾンデの歴史)

(専門分野)

ラジオゾンデ

### ■これまでの略歴、研究活動の紹介

昭和 62 年 3 月 東北大学院理研究科地球物専攻博士後期過程退

平成 8 年 9 月 信州大学院システム開発工専攻博士後期過程修了

昭和 62 年 4 月～ 明星電気株式会社入社

入社後は、主として防衛関連の特殊レーダ開発、装備品開発に従事

平成 17 年～ 気象・防災観測装置の技術開発マネジメントに従事

平成 20 年～ 取締役 技術開発本部長

平成 22 年 「世界標準となる光学的二酸化炭素自動測器の開発」が JST 実証・プロトタイプ開発プログラムに採択、現在は活用・普及促進プログラムで推進中

平成 25 年～ 現職

工学博士 ([https://sangakukan.jp/journal/center\\_contents/author\\_profile/shibata-k2.html](https://sangakukan.jp/journal/center_contents/author_profile/shibata-k2.html) より転載)



## 塙原 聰文

東北大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 助教

(HP) <http://www.astro.mech.tohoku.ac.jp>

(専門分野)

超小型人工衛星工学

### ■これまでの略歴、研究活動の紹介

2005 年 九州大学大学院工学府航空宇宙工学専攻修士課程修了

2009 年 ドイツ Stuttgart 大学大学院工学研究科博士課程修了 Dr.-Ing.

2009 年 4 月よりドイツ Stuttgart 大学における研究員を経て、2010 年 8 月より現職。

超小型人工衛星技術に関する研究開発に従事し、国内外のプロジェクトに参加。50kg 級超小型地球観測衛星 "SPRITE-SAT", "RISING-2", 50kg 級国際理学観測衛星 "RISESAT" (プロジェクトマネージャー)、技術実証 CubeSat 卫星 "RAIKO", "FREEDOM", 100kg 級地球観測衛星 "Flying Laptop" 等の研究開発・運用の実績がある。国外の研究機関からの委託研究として 50kg 級地球観測衛星の研究開発も実施している。